

祇園会ぎをんゑの祭式さいしきは、抑毎歳五月朔日の致斎より四条御旅町たびに櫛を立る、是こね一の華表とりゑの旧地なり。同廿日の吉符入より

鉾の町々には囃子初あり。神輿洗は同晦日にして、御迎提灯練物の行装艶々として洛東らくとうの賑ひなり。六月朔日は鉾の児

祇園参とて、乗物あるひは騎馬にて其行列花麗をつくし、高貴の往来に似たり。五日は鉾の引初。六日の早天には六角

堂において山鉾行列前後の鬪取あり、此日の夕かたには宵宮飾とて、山鉾を祭日の如くかざり立、提灯かずく連て夜

更るまで囃子ありて貴賤の群集いはん方なし。七日は祇園会とて、卯の刻より山鉾列を正し、四条通より京極を南へ、

松原を西へ引渡すなり。此日神輿の祭礼は未の刻にして、感神院かんじんゐんより御旅所たびしよへ神幸あり。又八日より十四日の山鉾の

營ありて、十三日の朝鬪取あり、十四日の山鉾は三条通を東、京極を南へ、四条を西に引渡すなり。神輿の祭式は、御

旅所より四条を西へ、東洞院より神輿は南北へ引別れて渡り給ふ、三条の西又旅社にしまたたびやしろにて同列し、三条を東へ還幸し給ふ

なり。同十八日には御輿洗とて晦日に等し、祇園鴨川かもがはのほとりは竹葦の如く群をなせり。〔山鉾の図は一二を挙るなり、

全図例祭古実の次第は祇園会細記にくはしきゆへこゝに略す〕